千代川流域地域

土地分類基本調査

浜　坂

5万分の1

国土庁土地局国土調査課

保存用

国土調査

鳥取県

1976

ま え が き

国土の秩序ある利用を図ることは，人口がちよう密で土地資源が限られている我が国において緊急かつ重要な課題であるが，その基本的理念は，国土が国民の生活及び生産の共通の基盤であることを念頭に置き，公共の福祉を優先させ，自然環境を損なわず，地域の自然的，社会的及び文化的特性を配意した均衡ある発展が図られるものでなければならない。

鳥取県は，山陰の中央部に位置し，その地理的，気象的条件から土地利用の発展が遅れていたが，それだけに未利用部分は多く，利用発展の可能性をもっている。この利用発展を具体化するため高速交通体系及び各種産業開発構想等が計画として策定されている。

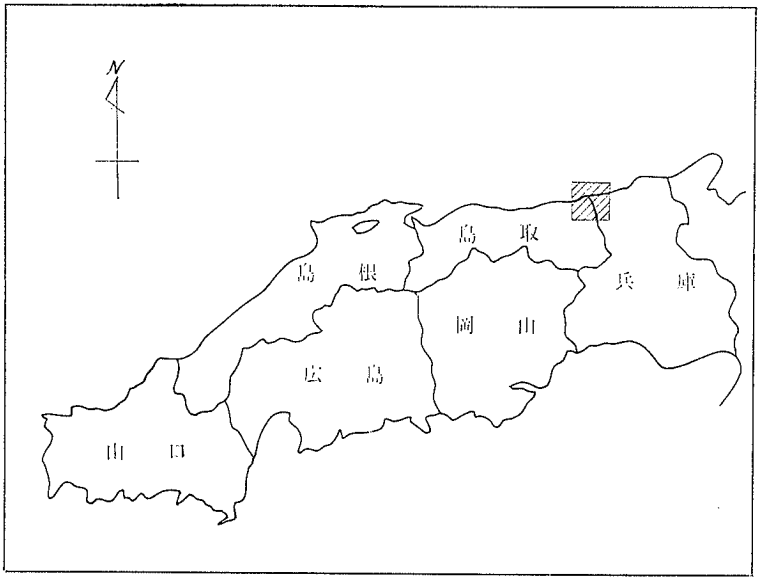
幸いに国において土地利用に関する具体的な公的プロジェクトのある地域の土地条件を明らかにするために，国土調査法に基づく都道府県土地分類基本調査が設けられているが，これは，土地の利用や規制に関する計画の基礎的な資料を提供するものとなっている。本県としてもこのような情勢に即応して，大山山ろく開発地域の土地分類基本調査として昭和48～49年度に「赤碕」「大山」，「青谷」「倉吉」（建設省国土地理院発行縮尺5万分の1地形図）を，千代川流域地域の土地分類基本調査として昭和50年度に「鳥取北部」「鳥取南部」（同図）を実施したのに引き続き「浜坂」，「若桜」「村岡」（同図）の鳥取県の区域を国土調査の指定を受け都道府県土地分類基本調査実施大綱及び鳥取県千代川流域地域都道府県土地分類基本調査作業規程に基づき，地形分類図，表層地質図，土じょう図，傾斜区分図，水系谷密度図，開発規制図，土地利用現況図の7図葉と簿冊を作成した。なお，印刷に当っては「若桜」「村岡」は接合印刷のうえ別冊とした。

今後も，他の図幅についても逐次実施し，全県下の図幅について作成する予定である。

目　次

まえがき
総　論
Ⅰ　位置・行政区画 …… 1
Ⅱ　人　　口 …… 2
Ⅲ　地域の特性 …… 3
Ⅳ　開発の方向と主な基本計画 …… 6
各　論
Ⅰ　地形分類図 …… 9
Ⅱ　表層地質図 …… 11
Ⅲ　土じょう図 …… 18
Ⅳ　水系谷密度図 …… 24
Ⅴ　傾斜区分図 …… 24
Ⅵ　開発規制図 …… 25
Ⅶ　土地利用現況図 …… 27
あとがき

位　置　図



総　　論

I　位置・行政区画

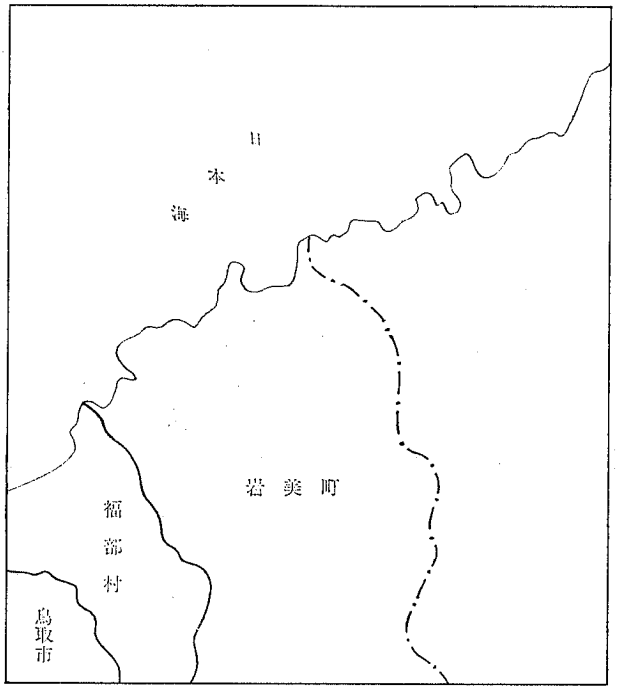
1 位　　置

「浜坂」図幅は北緯35°30′から35°40′まで東経 134°15′から 134°30′までの範囲である。

2 行 政 区 画

本図の行政区画は，第1図のように鳥取市，岩美町，福部村の1市2町村からなる。

第1図　行 政 区 画



Ⅱ 人　　口

本地域は鳥取県の北東端に当たり，ほぼ全域が鳥取市の経済圏に含まれる。昭和40年から昭和50年にかけての人口の推移をみると，鳥取市は全期間にわたって人口の増加傾向が認められる。しかし岩美町と福部村においては人口の減少傾向が認められる。これをさらに詳しく検討すると，鳥取市においては世帯数が大巾に増加しつつあり，核家族化が進行するとともに小住宅，アパートなどが増え，宅地化が顕著である。岩美町，福部村も鳥取市に距離的に接近しているため，鳥取の通勤圏に入っており，近郊化しつつある側面も認められるが，山間部の交通不便な小集落は人口が減少しつつある。他方岩美町の中心集落である浦富では僅かながら人口増や世帯数の漸増が認められる。

今後本地域の山間部においては引き続き人口の老年化，若年人口の流出現象がみられ，中心的地方町では人口の微増ないし停滞，鳥取市での人口増加の傾向がなお進行するものと思われる。

第 1 表　　世帯数，人口，人口移動状況

区分		年次	昭和40年	昭和45年	昭和46年	昭和47年	昭和48年	昭和49年	昭和50年
鳥取市		世帯数	26,670	32,113	31,256	32,323	33,163	34,000	35,384
		人口	108,860	111,258	114,252	115,300	117,276	119,140	122,312
		移動状況 総数		2,398	2,994	1,048	1,976	1,864	3,172
		移動状況 自然増減			1,106	1,305	1,227	1,300	1,245
		移動状況 社会増減			1,888	△ 257	749	564	1,927
岩美郡	岩美町	世帯数	3,718	3,758	3,722	3,779	3,794	3,821	3,826
		人口	18,004	16,638	16,593	16,410	16,252	16,153	16,062
		移動状況 総数		△ 1,366	△ 45	△ 183	△ 158	△ 99	△ 91
		移動状況 自然増減			34	86	64	52	53
		移動状況 社会増減			△ 79	△ 269	△ 222	△ 151	△ 141
	福部村	世帯数	673	688	697	700	699	705	695
		人口	3,515	3,358	3,297	3,314	3,281	3,249	3,193
		移動状況 総数		△ 157	△ 61	17	△ 33	△ 32	△ 56
		移動状況 自然増減			9	24	7	14	11
		移動状況 社会増減			△ 70	△ 7	△ 40	△ 46	△ 67

Ⅲ 地 域 の 特 性

1 自然的特性

本地域の海岸は鳥取県では最も出入に富んだ岩石海岸であり，海底にも岩礁が良好に分布している。これらの岩石海岸の間の湾内には砂浜海岸が分布し，砂丘の発達が認められる。山地はかなり急傾斜の壮年期山地が卓越しており，森林の生育が良好であるが，花崗岩山地の一部には禿山化の進行が認められるところがあり注意を要する。

気候的には曇天・雨天の多い山陰型気候であり，特に冬季の積雪量が著しい。

2 歴史的特性

本地域の沿海部や平野部は但馬地方と因伯地方とをつなぐ交通上の通路にあたるので，先史時代・歴史時代の遺跡も数多く分布している。縄文遺跡は，福部砂丘の海士(アモウ)付近の直浪(スクナミ)遺跡ややゝ内陸の栗谷付近の栗谷遺跡などが代表的なものであろう。また，古墳時代の住居遺跡が，やはり直浪遺跡に隣接する砂丘地において近年発見されている。古墳は平野に面した砂丘地，段丘，山ろく地などにかなり多数分布している。古代遺跡としては，岩井温泉付近の岩井廃寺跡が著名で，岩美町の平野には条里遺構も推定されている。

3 社会，経済的特性

(1) 農　業

本地域の農業は米作，なしおよび砂丘地農業の3種類から成り立っている。米作は，沖積平野および一部の段丘や山地の緩斜面において行なわれている。なしの栽培は山地斜面に広く果樹園が開かれている。砂丘地農業としてはそ菜，タバコ，ラッキョウなどがあるが，福部砂丘では広大な面積にわたるラッキョウの栽培が特に有名である。

(2) 水 産 業

本地域の沿岸漁業は，福部村，網代港，田後，浦富および東の5つの漁業協同組合によって営なまれており，組合員数は1180名（昭和49年）である。このうち網代港漁協は組合員数 429名で最も多く，次いで田後漁協が多い。漁港は田後が地方港湾に属し，網代が第3種漁港，東（大羽尾）および岩戸が第1種漁港に属している。年間水揚量は網代港が5465トンで最も多く，次いで田後港が2846トン，岩戸，東がそれぞれ

150トン，38トンである。（昭和48年調）

漁種はいか，とびうお，さばなどの浮魚とひらめ，かれい，かになどの底魚が代表的なもので，その他てんぐさ，わかめなどの海草，うに，あわび，バイなどが水揚げされている。

(3) 鉱・工　業

本地域の山間地はかって豊かな銀山が発見され，藩政時代には鉱山集落が形成されて賑わいをみせていたと云われる。しかし現在はそれらのうち最後まで残った荒金，百谷の両鉱山も閉山するに至っている。

(4) 観　　光

本地域には浦富海岸を中心とした山陰海岸国立公園が海岸線一帯に分布し，浦富海岸の鴨ケ磯付近の海域は海中公園でもある。浦富海岸は花崗岩の節理沿いに波食がすすみ，無数の海食洞や洞門が形成され，山陰松島の別称をもつすぐれた景観に恵まれている。また花崗岩の分解による美しい白砂の海浜は海水浴場としても著名で，このような条件を活かして，近年民宿が急速に増加しつつある。また，二十世紀なしのなし園は国道9号線沿いに観光なし園として発展しつつある。また鳥取砂丘・福部砂丘への観光客も増大しつつある。他方岩井温泉は平安時代からの古い保養型温泉として著名である。

(5) 統計資料

本図葉に係る市町村の就業構造と産業別事業数・販売・出荷額を記すと第2表，第3表のとおりである。

第 2 表　　就 業 構 造　　昭和45年国勢調査

区分＼市町村名	鳥取市	岩美郡	
		岩美町	福部村
農業	9,291	3,147	970
林業・狩猟業	98	24	—
漁業・水産養殖業	308	923	55
鉱業	28	15	—
建設業	3,563	573	74
製造業	12,020	1,636	266
卸売業・小売業	11,906	930	260
金融・保険業	1,589	97	15
不動産業	229	10	—
運輸・通信業	3,484	448	83
電気・ガス・水道業	531	18	7
サービス業	11,629	1,057	197
公務	3,104	261	50
その他	45	22	4
計	57,825	9,161	1,981

第 3 表　　産業別事業所数・販売・出荷額等

区分＼市町村名		鳥取市	岩美郡	
			岩美町	福部村
工業	事業所数	580	59	8
	従業所数	13,833	1,140	126
	製造品出荷額等（100万円）	99,560	4,366	621
商業	商店数	2,988	233	55
	年間販売額（100万円）	207,131	2,226	1,733
農業	農家数	5,597	1,830	555
	（専業）	329	88	43
	（兼業）	5,268	1,742	512
	生産農業所得（100万円）	3,866	1,006	510
	耕地面積総数（*ha*）	4,550	1,310	576
	田	3,750	1,090	312
	畑	800	220	264

昭和50年工業統計調査
昭和49年商業統計調査
昭和49～50農林水産統計

Ⅳ　開発の方向と主な基本計画

1　農　　業

平野部においては，農地の基盤整備を行ない，機械の共同利用を図り，水稲の高度集団化を進める。又市場性の高い野菜の生産団地化を図る。例えば福部砂丘においてはラッキョウの単一栽培が行なわれ，砂丘畑は一面に 165 *ha* のラッキョウにおおわれているのは壮観である。

また抑制野菜の団地造成，なしなど果樹の生産拡大，花木，チューリップ等生産団地の育成を計画している。

2　水　産　業

大型漁礁を沿岸に設置し，漁場の効率化と開発を図ると共に，網代港を鳥取県東部地域の漁業の拠点基地として，港湾施設の充実整備を行なう。

3　観　光　開　発

浦富海岸を中心とする海浜については，ピーク時の海水浴シーズンの需要にこたえ得るように，海水浴場における駐車場，海の家などの利用施設および民宿の整備を行うとともに，海浜公園の設置を検討する。また本地域には磯釣の適地が多いので，これらの場所では資源の培養施設，利便施設，安全施設の設置を進めるほか，漁港の遊魚対策についても検討する。

岩美町にある岩井温泉は低滞ぎみであるが海浜の観光資源の開発の推進と併せて温泉地の個性を強化し，観光客の滞留化を図る必要がある。

4　交　通　体　系

本地域は東西に国道9号線が延び，小河谷に沿って県道が南北のネットワークを作っている。これらの道路は自動車の普及にしたがい一層の整備が必要である。兵庫県との県境にある蒲生峠は冬季積雪のため，東西交通のネックとなっていたが，トンネルを貫通することにより解決を図りつつある。

鉄道については時間距離を飛躍的に短縮する山陰新幹線の建設を検討しつつあり，これを補完する在来線の電化，複線化を図ることとしている。

5　環　境　問　題

本地域の海岸一帯は山陰海岸国立公園に指定されており，自然景観に恵まれている

が，これらの自然を保全してゆく。近年これら海浜の美化や海底の清掃などに努めるとともに河川，海水の汚染対策を検討している。

（鳥取大学　文部教官　豊島　吉則）

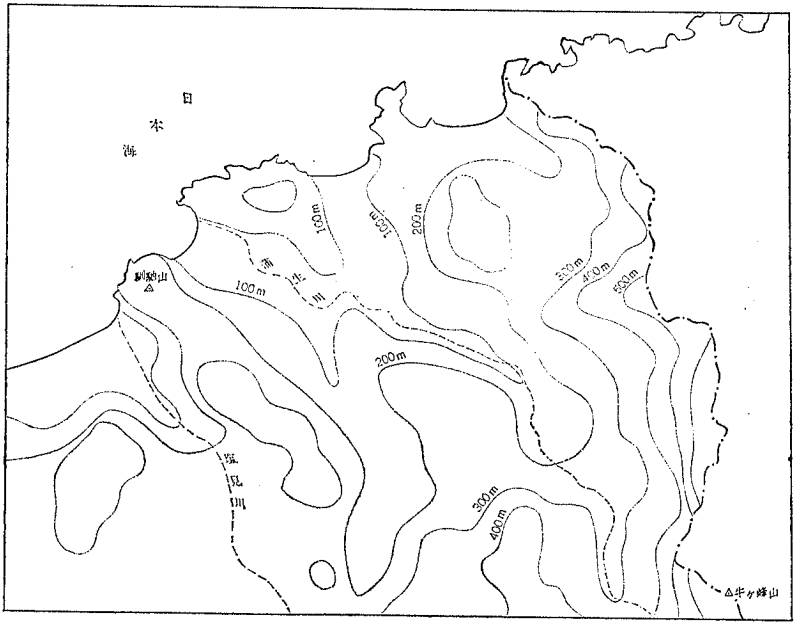
各　　論

1 地 形 分 類 図

1 地 形 概 説

地形の大要をみるため第2図の接峰面図を参照する。図によれば牛ケ峰山をふくむ海抜 300mの等高線が兵庫県との県境の山地を囲むように南北にのびている。他の山地はおおむね高度 300m以下の小起伏山地で，この山地の下位には高度 100m～ 200mの山ろく地がみられる。これらの諸山地は蒲生川，小田川，塩見川などの小河川によって開析されて小面積の山地群に分割されている。

第 2 図　　接 峰 面 図



2 地 形 細 説

2 — 1 山　地

本地域の山地のうち中起伏山地は，海抜 713mの牛ケ峯山付近の山地のみである。

小起伏山地は図葉内の山地の大半を占める。小起伏山地の大部分はかなり侵食がすすみ壮年期的な地形であるが，構成岩石の種類などの条件によって地形特性が多少異な

る。第三紀層の泥岩からなる蒲生峠西側の山地はかなり緩やかな斜面をもつ山地であるが，鮮新世安山岩類からなる駟 馳 山，立岩山の山地は急峻な山地地形を示している。図葉西部の摩尼山から本陣山にかけては海抜 200m～ 300mの山頂平坦面が良好に発達している。山ろく地は福部村の岩戸，海士，高江，久志羅付近，岩美町の向山，本庄，新井および延興寺付近に分布している。これらの地形は主として海抜高度 150m以下の範囲にあり，比較的緩斜面で構成され，なしなどの果樹園として利用されているものもある。

2－2 台　地

本地域は小河川に沿って断片的に河岸段丘の形成がみられるがその面積は小さい。

高位段丘は，いわゆる津ノ井段丘に相当するものが海士付近に分布している。また GtⅠに相当する段丘が南田付近に GtⅢ に相当する段丘が福部砂丘南部に分布している。これはいわゆる古砂丘に相当する。これらの高位段丘は大山ローム，クロボクにおおわれている。中位段丘および低位段丘は蒲生川の中・上流に沿って分布している他は断片的である。

2－3 低　地

本地域のデルタは砂丘地の南側の低湿な場所に分布し，かつて潟湖であった場所に分布している場合が多い。デルタ地帯の海岸寄りには現在でも浸水常習地であるところが多く，湿地として表現してある。これらの地域は泥質，泥炭質の軟弱な地盤である。湯山のデルタは近世まで湯山池とよばれる湖であって，埋立てによって水田化したものである。

谷底平野は各河川の中・上流部に細長く分布し大部分は水田として利用されている。

砂丘地は東から陸上・東浜の砂丘，浦富の砂丘，大谷砂丘および福部砂丘が海岸に沿って分布している。これらの砂丘の大部分は沖積世に形成された移動性のものであったが，現在では防砂林によって固定され，農地や宅地として利用されている。

3 地 形 災 害

花崗岩山地の浦富，網代付近では禿山化と土じょう侵食に留意する必要がある。蒲生峠西の横尾付近では地すべり地形があり，今後とも十分な対策を必要とする。またデルタ地帯の湿地部では排水不良地であるから，大雨のあとに注意が必要である。

（鳥取大学　文部教官　豊島　吉則）

Ⅱ 表 層 地 質 図

1 表層地質概説

本図葉に分布する岩石および堆積物は未固結堆積物，半固結堆積物，火山性堆積物（半固結～未固結），火山性岩石および深成岩である。深成岩は浦富海岸付近で露出し国立公園浦富海岸の景観の基礎となっている。いっぽう図葉内の地下にも広く分布していて，基盤岩ともなっている。火山性岩石のうち新第三系で鳥取層群に所属するものはもっとも広く図葉内に発達しており，鮮新世火山岩と更新世火山岩は兵庫県境の山地を中心に発達し，深成岩および新第三系の火山性岩石を被覆している。

未固結堆積物，半固結堆積物は海岸沿いの低地と塩見川，小田川，蒲生川沿いの谷底低地に発達している。福部村の海岸部には鳥取砂丘が東方に伸びて分布し，古砂丘・新砂丘がみられる，海士，細川，本庄には潟性の低地が発達し，軟弱な地盤をつくっている。

地質構造は比較的簡単で，本図葉の北東部と南西部の深成岩類が西北西―東南東方向の断層で新第三系と接し，後者は中新世以降の火山噴出物によって広く不整合関係でおおわれている。新第三系はゆるく褶曲をくり返しているが，一部で変質し，銅鉱床を胚胎している。（第4表を参照）

第 4 表　　表 層 地 質 総 括 表

地質時代			未固結堆積物	半固結堆積物	固結堆積物	火山性岩石（含火山性堆積物）	深 成 岩
新生代	第四紀	完新世A	礫（g） 砂＋礫(sg) 砂（s） 砂丘砂(Sn) 泥（m）				
		更新世D	砕屑物＋火山灰土（cℓ）	砂礫2（Sg_2） 砂礫1（Sg_1） 砂丘砂(So) 粘土(C)		ローム（L）	
	新第三紀	鮮新世				安山岩質岩石(Pv) 流紋岩質岩石(Tr)	
		中新世 T_n			泥岩・砂岩（Tf）	火砕岩4（Tp_4） 火砕岩3（Tp_3） 火砕岩2（Tp_2） 火砕岩1（Tp_1）	花崗岩質岩石4（Df）
中生代M						流紋岩質岩石1（Mr）	花崗岩質岩石3（Gr_3） 花崗岩質岩石1（Gr_1）

2 表層地質細説

(1) 未固結堆積物

れき（g）

蒲生川，小田川，塩見川各河川流域の岩井・高住・中より上流の谷底平野にれきを中心とした砂れき層が分布している。

れき質は，上流部の鮮新世安山岩や各火砕岩を主体とする新鮮なれきである。

河床堆積物の厚さは，岩井付近の蒲生川では7mで基盤岩に達していることから，比較的薄いことが推定される。このことから，これらの地域では地下水の帯水層が少ないと考えられる。

砂＋れき（sg）

蒲生川，下流の本庄，塩見川，下流の福部駅，蒲生川の旧河道の岩美駅付近を中心に分布し，各河川の三角州的な堆積をしている。

各河川の河口から6～7km付近までは，比高が1.0 m±で低位は海成層を中心とした泥，砂・シルトの互層となっているが，高位はれきや砂が堆積している。

砂（s）

海岸の打上げ砂，砂丘の内陸に発達している旧潟湖堆積物としての砂などを一括した。湯山の低地，細川，大谷の三角洲性砂で粗砂～細砂である。砂粒は新鮮である。

砂丘砂2（Sn）

沖積世に形成された新砂丘で海岸部にそって浜坂砂丘に連続する福部砂丘，大谷砂丘，浦富砂丘，陸上砂丘が分布している。砂丘中には，暗黒色のバンドをはさむことがあり，これを「クロズナ」と呼ぶ。大部分の砂丘砂は，クロズナより新しいものである。

砂丘砂は，一般に淡黄色ないし黄灰色を呈している。その9割は石英であり，中央粒径は0.35mm程度である。

砂丘砂層の厚さは場所により一様ではないが福部砂丘で40m内外と推定される。本層の下には海成粘土層がみられる場合と，より古期の砂や岩盤のみられる場合がある。

泥（m）

福部砂丘，大谷砂丘，浦富砂丘などの海岸砂丘の内陸側の低地に泥層がよく発達する。地形的には三角洲の分布範囲とほゞ一致している。

層厚は巻10mで軟らかいシルトや細砂混じりの泥が卓越し，海成貝化石を包含していることが多い。N値は著しく小さく，含水比大な地層である。したがって地耐力が小さいから，基礎地盤としては不適で，介在する砂層と下部の砂れき層が支持地盤となる。この地層は縄文海進による海成層で，工法上十分な配慮をする必要がある。陸成層と陸成の後背湿地堆積層からなる内湾，河口型の堆積物である。

砕屑物＋火山灰土（cℓ）

岩美町荒金と図葉南側の蕪島の両岸付近に，相当広い崖錐堆積物や火山灰からなる地形が分布している。

後者の蕪島付近では，数段に堆積面が見られ，水田に利用されている。これらは洪積世末期の現在とは異る気候環境下に形成されたものと推定される。

土石流堆積物と考えられるものとより徐々に移動した岩塊流的なものがあるが一括した。岩質は，すぐ背後の地質に支配されている。

(2) 半固結堆積物

砂れき２（Sg２）

本図葉内に発達する段丘のうち，低位のものの構成物質を主体とするもので，蒲生川の真名付近に分布している段丘堆積層を模式的なものとするものである。一般に新鮮な円れき層からなる。比高は７m以下で，小谷の合流地区に発達している。

砂れき１（Sg１）

中・上位段丘層をつくる砂れき層である。本図葉には蒲生川，小田川，塩見川の河川がほぼ南北に流下している。それぞれの河川の岩井・河崎・南田より上流には，風化した砂れき岩からなる小さな河岸段丘が発達している。蒲生川の相山の対岸では比高が８m以上で，砂れき層の上に，大小上・中部火山灰層をのせているのが確認できる。従来の中位段丘れき，上位段丘れきを一括した。

砂丘砂１（So）

洪積世に形成され，大山中部火山灰層に被覆される砂丘層である。

福部砂丘や浦富砂丘の一部にも広く露出しているほか，一部では基盤をおおっている所もある。風化した黄かっ色ないし黄灰色の細粒砂からなり，淘汰良好でやゝ固結している。厚さは30m以上と推定され，湯山粘土層と同時期に堆積したものと考えられる。

粘土（C）

湯山粘土と呼ばれている本粘土は，福部村摩尼山の北斜面である山湯山から高江付近に分布する。津ノ井粘土と対比されるもので，古砂丘とは同時層である。荒金火砕岩に不整合にのり，中部火山灰におおわれている。また岩美町延興寺にも小規模ながら同時期に形成されたと思われる粘土層が採掘されている。

(3) 火山性堆積物

大山火山活動による火山灰は大山から離れるにしたがって薄くなる。したがって本図葉内では大山下部火山灰以下のローム層は確認できなかった。また，上部火山灰も中部火山灰と区別ができないほどうすくなっているので一括して示した。福部砂丘には厚さ１ｍ±の火山灰が分布し，新砂丘と古砂丘とを区分する鍵層になっている。白地～馬場，法正寺，河崎の東，左近，荒金付近の段丘上に分布しているのが認められる。

(4) 固結堆積物

泥岩・砂岩（Ｔｆ）

鳥取層群中の普含寺泥岩層に相当するもので，図葉内では塩見川の上流域の久志羅，左近，蒲生川の谷の延興寺付近，相山，蒲生付近の河床などに広く分布している。砂岩は，主に中粒均質塊状である。泥岩には暗灰色を呈する砂質シルト～シルトをも含めた。しばしば植物片を含むことがある。

(5) 火山性岩石

安山岩質岩石（Pv）

本図葉内の東部の山地一帯の山頂部や，台地上に分布する。立岩山，駟馳山などに見られる。鮮新世火山岩類で上部に発達する角閃石安山岩，無斑晶安山岩，普通輝石紫蘇輝石安山岩などを一括したものである。厚さは 200m近い。

流紋岩質岩石２（Tr）

鳥取県地質図で長砂流紋岩としてまとめられたものに相当する岩石で，前期鮮新世～中新世の火山岩である。岩美郡本庄，岩常付近に分布する流紋岩～石英斑岩がこれである。後述する火砕岩３をぬいているかまたは被覆している。

火砕岩４（Tp４）

火砕岩を主とする中新世末の噴出岩で，鳥越火砕岩もしくは照来層群相当のもので

ある。分布は図葉内の南東端に限る。

火砕岩３（Tp３）

本図葉内にもっとも広く分布している鳥取層群の荒金火砕岩層と小田安山岩層を一括したものである。荒金火砕岩は小田安山岩に整合にのる流紋岩ないし石英安山岩の火砕岩を主とし，同質の溶岩をはさんでいる。一部はいちじるしく変質し，銅鉱床を胚胎している。小田安山岩の分布はせまく，いちじるしく変質している。

火砕岩２（Tp２）

岩美町岩井，長谷，燕島付近にのみ分布する火砕岩で，白色～灰白色の流紋岩～石英安山岩質凝灰岩を主とする。普含寺泥岩層相当の泥岩・砂岩（Tf）より下位であるが火砕岩１（Tp１）との関係はわからない。

火砕岩１（Tp１）

本図葉内ではこの火砕岩１は羽尾岬と陸上の東にわずかに分布するのみである。花崗岩と断層で接しているのでくわしい層位はわからないが，河原火砕岩層の岩相と類似しているので区別した。暗緑色の安山岩質凝灰角礫岩で，花崗岩礫を含んでおり，安山岩脈に貫ぬかれている。

流紋岩質岩石１（Mr）

本図葉南東端の久松山塊にごく小規模に分布する。本岩石は中生代火山岩類に属する流紋岩である。

(6) 深　成　岩

花崗岩質岩石４（Df）

鳥取市円護寺，摩尼山付近に分布する花崗岩質岩石は，淵見閃緑岩の北方延長の岩石で，安山岩質の岩脈・岩頸などの複合岩体であるが，いちじるしい変質作用をうけている。

花崗岩質岩石３（Gr３）

本図葉の北東縁岩美町浦富海岸にほぼ東西方向に分布する。鳥取花崗岩に属するもので粗粒黒雲母花崗岩を主とし，細粒花崗岩，アプライト質花崗岩などをまじえている。

花崗岩質岩石１（Gr１）

鳥取市久松山塊に分布する酸性半深成岩類で，鉛山型花崗岩または鉛山文象斑岩と

よばれているものである。周辺の岩石とは断層で接している。岩相変化がいちじるしい。

3 応 用 地 質

(1) 災　害

地すべり，山くずれ

図葉内の急斜地は豪雨時に山くずれの危険性がある。とくに，近来開発された林道では，随所に崩かいが見られるので充分留意する必要がある。

地すべり地として蒲生峠地区があげられる。こゝには普含寺泥岩層が分布しているが，断層が発達し，分断されていていわゆる地すべり地形を呈している。

平野の地盤

海岸部の沖積地には砂・泥が発達し，地表下10m前後までは軟弱地盤である。また，地形的に河口部がせまくなっているので，出水時にはしばしば冠水する。

海 岸 侵 食

砂浜海岸では砂の供給がほとんどなくなって砂浜がやせて来ている。岩戸，大谷，浦富などで砂の堆積を促進する工事が必要であろう。

(2) 鉱　床

図葉内で稼行されている鉱山はないが，かつて銅鉱床が各地に開発されていて重要であった。

荒金鉱山，百谷鉱山はその代表的なものであるが廃坑となっている。そして，鉱害が問題になっているがすでに対策がほどこされている。田河内鉱山は陶石，相谷鉱山は石炭，銀山は銀とそれぞれ産出したが，量が少ないかすでに廃坑となっている。

(3) 石　材

図葉内には有名な南田石，小田石の産地がある。これらは荒金火砕岩に属する緑色凝灰岩である。

八重原には採石場があり花崗岩質岩石4を採石している。

(4) 地 下 水

岩美地区の地下水の発達は平野部をのぞきあまりよくない。沖積地では水質がよくないのであまり利用されていない。沖積地が海成堆積物から構成されているためである。恩志では4000m^3/日程度の地下水流動が推定されている。

(5) 温　　泉

岩井温泉が岩井火砕岩中の裂罅から上昇湧出している。温泉は東西 300m，南北 200mの間に分布し，深度は8m前後で自噴井も残っている。泉温は51°C～31°C，泉質はPH7.4 の中性泉で含芒硝石膏泉～含石膏芒硝泉である。上記のほか，福部村久志羅にも湧水量は少ないが温泉がある。

（鳥取大学　文部教官　赤木　三郎）
（倉吉市立明倫小学校教諭　佐治　孝弍）

Ⅲ 土じょう図

1 山地および丘陵地域の土じょう

1—1 土じょうの概要

本図葉の地域は鳥取県の東部に位置し，兵庫県に接する海岸部とその背後の低山丘陵地で，山陰海岸国立公園の鳥取砂丘の一部や浦富海岸などが含まれている。

出現する土じょうは，かっ色森林土じょう，黄かつ系かっ色森林土じょうおよび赤かつ系かっ色森林土じょうの三つに大別され，これらは地形，地質などにより各々特徴をもった土じょうを形成し分布している。

蒲生川の中流から上流兵庫県境にかけてかっ色森林土じょうがみられ，海岸部に接した低山丘陵地には，赤かつ系かっ色森林土じょうが出現し，これらの中間丘陵山地に黄かつ系かっ色森林土じょうが分布している。

出現する土じょうをとりまとめると，3土じょう群，9土じょう統群となり次表のごとくである。

第 5 表　山地および丘陵地の土じょう一覧表

土じょう群	土じょう統群	記号
岩石地	岩石地	R L
黒ボク土	黒ボク土じょう	A
かっ色森林土	乾性かっ色森林土じょう	B—d
	〃 (黄かつ系)	B (Y) —d
	〃 (赤かつ系)	B (R) —d
	かっ色森林土じょう	B
	〃 (黄かつ系)	B (Y)
	〃 (赤かつ系)	B (R)
	湿性かっ色森林土じょう	B—W

1—2 土じょう細説

岩石地 RL

山陰海岸国立公園地域の岩美町を中心にした海岸部で断崖や露岩地である。

黒ボク土じょう　A

扇ノ山の火山灰を母材とし，黒～黒かっ色の表層土が50cm以下で，兵庫県境に緩斜近い面に小面積みられる。

乾性かっ色森林土じょう　B－d

因幡東南部の兵庫県境に接する山地の山腹上部から尾根筋にかけて幅狭く分布する。

A_0層がよく発達して厚く，A層は薄く堅密で腐植に乏しく，一部M層がみられることもあり，理化学性は劣り，アカマツが生育しているがその生長はよくない。（林野土じょうのB_A，B_B，B_C型に相当する。）

乾性かっ色森林土じょう（黄かつ系）　B（Y）－d

低山丘陵地の流紋岩，凝灰岩などを基岩とする地域の福部村，岩美町（岩井地区）の山腹上部から尾根筋にかけて比較的幅広く分布する。

A層は，乾性かっ色森林土じょう同様浅く堅密で腐植に乏しくB，C層は黄味を帯びた酸性土じょうで，アカマツ天然林や人工造林地が多いが，その生育は劣る。（林野土じょうのyB_A，yB_B，yB_C型に相当する。）

乾性かっ色森林土じょう（赤かつ系）B（R）－d

花崗岩を基岩の中心とした岩美町（東，浦富，田後，網代，大谷，小田地区）の海岸部に接した地域の山腹上部から尾根筋にかけて比較的幅広く分布する。

前記土じょう同様，A層は浅く堅密で腐植に乏しくB，C層は赤味が強くその理化学性も劣る酸性の土じょうである。アカマツ天然林や，人工造林地が多いがその生育は不良である。（林野土じょうのrB_A，rB_B，rB_C型に相当する。）

かっ色森林土じょう　B

乾性かっ色森林土じょうの出現する地域の山腹中部から谷筋にかけて分布している。

一般にA層は厚く腐植に富みB層はかっ色を呈し，その層位は漸変し膨軟で粒状～団粒状構造がよく発達した匍行～崩積土である。地形によりスギ，ヒノキ，アカマツの造林適地に大別され，その生育は良好である。（林野土じょうのB_D－d，B_D型に相当する。）

かっ色森林土じょう（黄かつ系）B（Y）

乾性かっ色森林土じょう（黄かつ系）の出現する地域の山腹中部から谷筋にかけて分布している。

A層は比較的厚く腐植に富み，B，C層の色調はかっ色森林土じょうに比べ黄味が強く山腹斜面はやや乾燥気味となり，アカマツ，ヒノキの造林地が多く，谷筋では団粒状構造が割合よく発達してスギの生育も良好である。また，福部村の一部を中心に日当りのよい斜面でナシの栽培がなされている。（林野土じょうのyBD—d，yBD型に相当する。）

かっ色森林土じょう（赤かつ系）B（R）

乾性かっ色森林土じょう（赤かつ系）の出現する地域の山腹中部から谷筋にかけて分布している。

一般に全層土とも比較的深いが，やや堅密で構造の発達も不良なものがみられ，B，C層の色調は赤味が強く，理化学性もやや不良でアカマツ，ヒノキの造林が行なわれているが，その生育はやや劣り，一部でナシの栽培がなされている。（林野土じょうのrBD—d，rBD型に相当する。）

湿性かっ色森林土じょうB—W

かっ色森林土じょうの分布するかなり起伏の大きい山腹下部から谷筋にかけて幅狭く点在して出現する。

A層は非常に厚く腐植に富み，膨軟な団粒状構造が深くまで発達した崩積土で林野土じょうの一等地にあたり，その生産力は高くスギの優良林分が多い。（林野土じょうのBE，BF型に相当する。）

（鳥取県林業試験場　平尾　勝男）

参考資料

1. 鳥取県林業試験場（1956～1969）民有林適地適木調査報告書
2. 鳥　取　県（1966）　鳥取県地質図
3. 林野庁大阪営林局（1968）　大阪営林局土壌調査報告書第13報鳥取事業区
4. 兵　庫　県（1974）　林野土壌調査報告「浜坂，若桜，板根」
5. 経済企画庁（〃）　土地分類図1/20万「鳥取県」

6. 経 済 企 画 庁 (1974) 土地分類図万1/20「兵庫県」
7. 鳥 取 県 (1975) 土地分類基本調査 1/5 万「鳥取北部，鳥取南部」

2 台地，低地地域の土じょう

2－1 土じょうの概要

本地区の土じょうを土地分類基本調査作業規程準則にしたがい，その断面形態，母材，堆積様式により，次の如く細分した。

土じょう群	土じょう統群
未 熟 土	砂丘未熟土じょう
黒 ボ ク 土	多湿黒ボク土じょう Ⅱ
灰色低地土	細粒灰色低地土じょう Ⅰ．Ⅱ
	灰色底地土じょう Ⅰ．Ⅱ
	粗粒灰色低地土じょう Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ
グ ラ イ 土	細粒グライ土じょう
	グライ土じょう
	粗粒グライ土じょう
泥 炭 土	低位泥炭土じょう
	黒泥土じょう

2－2 土じょう細説

1 未 熟 土

(1) 砂丘未熟土じょう（RS）

日本海沿いに分布し，風積により堆積した砂丘地で，A層の発達の弱い，全層砂からなる（砂99％以上，粘土1％以下）土じょうである。主なる分布は鳥取砂丘一帯である。本土じょうは腐植含量，粘土含量が少なく保肥力，保水力が弱く，干ばつのおそれがある。

畑地は福部村海土，岩美町大谷に分布し，福部村の砂丘畑はかんがい施設が完備し，ラッキョの栽培が盛んである。

2 黒ボク土

(1) 多湿黒ボク土じょう（A—W—Ⅱ）

本土じょうは腐植に富む火山灰質のもので低地に分布し，稍々黒土層が退化してい

る。黒色土層は20cm内外で浅く，岩美町蒲生付近の沖積地よりやゝ高い位置に細長く分布する。下層は灰かっ色で重粘である。

3　灰色低地土

本土じょうは土じょう断面の主要土層の土色（灰～灰かつ），下層土の土性，れき層の出現位置により次の如く7分類される。

(1)　細粒灰色低地土じょうⅠ（GL－f－Ⅰ）

本土じょうは，その主要土層が灰色～灰かっ色，土性は表土，下層土ともに重粘でマンガン結核をもたないものである。福部村の山合いの水田に分布し泥岩の影響をうけ透水性は不良である。

(2)　細粒灰色低地土じょうⅡ（GL－f－Ⅱ）

本土じょうはその主要土層が灰色～灰かっ色，土性は全層が粘質で，下層にマンガン結核をもつものである。

岩美町本庄，蒲生一帯の棚田水田に分布し透水性は不良である。

(3)　灰色低地土じょうⅠ（GL－Ⅰ）

本土じょうはその主要土層が灰～灰かつで，斑紋の発達が顕著で，マンガン結核をもたないじょう質の土じょうである。

主として岩美町岩井に分布する。

(4)　灰色低地土じょうⅡ（GL－Ⅱ）

本土じょうの主要土層は灰～灰かっ色で，下層にマンガン結核をもつ，じょう質の土じょうで透水性はやゝ不良である。

岩美町恩志，福部村山湯山一帯の山沿いの水田に僅かに分布する。

(5)　粗粒灰色低地土じょうⅠ（GL－c－Ⅰ）

本土じょうは，その主要土層が灰色で30cm以内より砂れき層，れき層が出現する土じょうである。河川沿いの山間地水田に点在し，排水良好であるが耕土が浅く鉄，マンガンその他塩基の溶脱が甚だしい。

(6)　粗粒灰色低地土じょうⅡ（GL－c－Ⅱ）

本土じょうは，れき質土じょうで，主要土層が灰色を呈し，30～60cm以下に砂れき，れき層をともなう。一般に下層の斑鉄の集積が著るしく，排水良好な土じょうで，岩美町陸上院内等の河川沿いの平坦地に細長く分布する。

(7) 粗粒灰色低地土じょうⅣ（GL－c－Ⅳ）

本土じょうは，その主要土層が灰色～灰かっ色で下層に砂質の土層をともなうもので排水は良好であるが生産性は低い。主として岩美町高住，福部村海土に分布する。

4 グライ土

本土じょうは全層～作土直下よりグライ層の発達したもので下層土の土性の相異により次のごとく3分類される。

(1) 細粒グライ土じょう（G－f）

本土じょうは，その主要土層が青灰色でグライ層をもち全層粘質～強粘質のもので，岩井火砕岩，泥岩の影響をうけた地域に多くみられる。

岩美町浦富，池谷，福部村栗谷，高江一帯の水田に広く分布する。透水性不良で水の移動が少なく農作業に困難をきたすが生産性は高い。

(2) グライ土じょう（G）

本土じょうは下層に青灰色のグライ層をともない下層の土性がじょう質のものである。岩美町本庄，恩志，牧谷の水田に僅かに分布し地下水位は低いが生産性は中である。

(3) 粗粒グライ土じょう（G－c）

本土じょうは作土直下よりグライ層が出現するもので下層土の土性が砂質で，土色青灰色で地下水位が高く，排水の不良地である。

海岸砂丘に接した福部村湯山，岩美町平野の水田に分布し，土じょうの化学性が悪く，生産性は低く不安定である。

5 泥 炭 土

(1) 低位泥炭土じょう（LP）

本土じょうは，下層に泥炭層のあることが特徴で，作土下にグライ層をはさんで泥炭層が連なる，岩美町浦富附近の海岸に接する湖沼退化地の山裾水田にみられ分布面積は僅少であり，低位生産地である。

(2) 黒泥土じょう（M）

本土じょうは鉄斑紋のかなり発達した表層直下に黒泥層のあるもの，或は黒泥層をはさんで下層に泥炭層をもつ土じょうで，表土，下層土とも粘性が強い。地表下1m以内より湧水し，全般に排水不良で生産力は低い。岩美町浦富，福部村県の水田に分布する。

（鳥取県農業試験場　西尾　一雄）

Ⅳ 水 系， 谷 密 度

水系分布をみると，本地域の河川は蒲生川，小田川，塩見川のような小河川が北西に向って流下し，これらの河川に流れこむ一次，二次の水系は短小なものが多い。一般的には水系のパターンは樹枝状水系を示している。水系の分布をみると平野部で旧潟湖であったと思われる範囲には自然水系がみられない。湯山，駟 馳 山東ろく，岩美駅北方などはその事例である。また福部砂丘，大谷砂丘などの砂丘地帯には当然のことながら水系はみられない。

谷密度は山地の開析度によって異なるが駟 馳 山はほとんど開析されておらず谷密度は小である。また蒲生峠西側の横尾付近は第3紀層の緩斜面で谷密度が小さい。しかし本地域の大部分の山地は壮年的に開析されており谷密度もほゞ同ていどであると云えよう。

（鳥取大学文部教官　豊島　吉則）

Ⅴ 傾 斜 区 分 図

傾斜区分図は5万分の1地形図上において，できるだけ多くの地点において等高線間隔から傾斜度を読みとり，その大きさを40° 以上，30°～40°，20°～30°，15°～20°，8°～15°，3°～8°，3°未満の7段階に分けて単位斜面毎に分類して図化した。

本地域の傾斜分布を概観すると，40° 以上の急斜面は山陰海岸の海食崖にかなり連続的にみられる。浦富海岸はその典型的なもので，花崗岩の節理や断層に沿う波食により40°～70° の急崖が連続して美しい景観を形成する。また，兵庫県寄りの東浜や羽尾付近にも同様な海食崖が分布する。

傾斜20°～30°，30°～40°の斜面は本図幅内の山地に普通に発達している。15°～20°の斜面は低起伏の山ろく地にかなり分布している。傾斜3°～15°の緩斜面は山ろく地や砂丘地，台地などに広く分布する。傾斜3° 以下のものは沖積平野や砂丘地に分布している。

（鳥取大学　文部教官　豊島　吉則）

Ⅵ 開 発 規 制 図

本図葉内には美しい海岸，温泉地等があるがこれらを高度に利用するための土地利用計画は自然環境，遺跡，文化財等の保護との調和のとれたものでなければならない。

本図葉内における土地利用及び開発を制限する人為的要因は次のとおりである。

1 国 立 公 園

本図葉内の海岸部一帯は山陰海岸国立公園の公園区域の一部となっている。

この公園区域内の行為制限は自然公園法（昭和32年6月1日法律第 161号）によって定められ一定の手続きを経なければならない。

2 鳥 獣 保 護 区

久松山周辺，山陰海岸，岩美町奥部が鳥獣保護区に設定されている。これらの区域内では巣箱，給餌台，給水器等を設置し鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律（大正7月4月4日法律第32号）によって鳥獣の捕獲が禁止されている。

3 保 安 林

図葉内の各所には水源かん養保安林，土砂流出防備保安林等が局所的に指定されている。

保安林の法的規制は森林法(昭和26年6月26日法律第 249号)により規定されている。

4 砂 防 指 定 地

砂防設備を必要とする土地，又は，治水砂防のため一定の行為を制限しようとする土地は砂防指定地に指定されている。これら砂防指定地には，砂防えん堤，護岸などの砂防工事が実施されており，本図葉内には76河川が指定されている。

砂防指定地内の行為制限は，砂防法（明治30年3月30日法律第29号）によって定められている。

5 急傾斜地崩壊危険区域

急傾斜地崩壊危険区域は急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律（昭和44年7月1日法律第57号）に基づき指定されるもので本図葉内に7か所指定されており，急傾斜の崩壊防止工事の実施並びに行為制限措置などが講ぜられている。

6 地すべり防止区域

本図葉内の地すべり防止区域は，岩美町に3か所指定されている。地すべり防止区域

は，地すべり等防止法（昭和33年３月31日法律第30号）によって地域の保全と民生の安定のための防止策が講ぜられるとともに，行為の制限がとられている。

7　海岸保全区域

本図葉内の海岸保全区域は 4,105m指定されている。これら指定区域内は海岸法（昭和31年５月12日法律第 101号)により,海岸管理者である知事が行為制限を行っている。

8　国　有　林

本図葉内の国有林は久松山及び，岩美町田河内付近に存在する。国有林を借受け又は使用する場合には，国有林野法（昭和26年６月23日法律第 246号）により，営林署長又は営林局長の承認を要する。

9　史跡，名勝，天然記念物及び埋蔵文化財

本図葉内には史跡，名勝，天然記念物として指定されているものが７件あり，それぞれ文化財保護法（昭和25年５月30日法律第 214号）及び岩美町文化財保護条例（昭和48年３月30日岩美町条例第13号）によって保護されている。

また，文化財保護法では埋蔵文化財についても保護上必要な規定が設けられており，この図葉内には33か所の遺跡が確認されている。これらに関する法的規制等の概要は，次のとおりである。

(1)　許可を必要とするもの

史跡，名勝，天然記念物に関する現状変更等の制限

国指定　　文化庁長官（文化財保護法第80条）

町指定　　町教育委員会（岩美町文化財保護条例第９条第２項）

(2)　届出を必要とするもの（文化庁長官）

埋蔵文化財の発掘（法第57条，第57条の２）

遺跡の発見（法第57条の５）

(3)　通知を必要とするもの（文化庁長官）

国の機関，地方公共団体，国若しくは地方公共団体の設立に係る法人で政令の定めるものが，周知の遺跡を発掘しようとするときあるいは新たに遺跡を発見したとき

埋蔵文化財の発掘（法第57条の３）

遺跡の発見　　（法第57条の６）

なお，埋蔵文化財については資料が十分でないため，県教育委員会では昭和47年度

から分布調査を継続中であり，開発計画の策定にあたっては教育委員会と十分事前に協議することが望ましい。

（鳥取県農林部農業指導課）

<資料提供機関>

衛生環境部自然保護課，農林部林務課，農林部造林課，農林部水産課，土木部河港課，土木部砂防利水課，教育委員会事務局文化課

Ⅶ 土地利用現況図

本図葉は岩美郡岩美町，福部村を主体とし，鳥取市の一部を包括している。

1 農　地

(1) 水　田

水田の分布は蒲生川，小田川，塩見川の流域に開けた沖積地で水田の特徴は細粒質のものが多い。

塩見川流域，浦富一帯の海岸閉そく地は細粒グライ土じょうで図葉内耕地大半を占め排水不良で農作業にも困難をきわめ裏作導入は不可能である。その他の水田は細粒灰色土じょうで透水性はよいが浅耕である。一部（陸上，百谷，岩井）に花木が栽培されている。

(2) 畑

本図葉内の畑は砂丘未熟土じょうとかっ色森林土じょうである。砂丘未熟土じょう地帯には一部畑地かんがい施設が完備しラッキョが主体で一部タバコが栽培されている。

かっ色森林土じょうの畑は山裾に開けた樹園地で梨栽培が盛んで観光果樹園として

有名である。

2 林　地

本図葉内の国有林は鳥取市本陣山，岩美町陸上川上流に位置し，スギの人工林とマツの天然林が大部分である。

民有林は点在するスギの人工林及びマツの天然林の他は，広葉樹天然林と混交林が団地的に分布し，面積的には後二者が大半を占めている。

保安林は海岸線沿いの林地に魚つき保安林，飛砂防備保安林が帯状に指定され，水源かん養保安林，土砂流出防備保安林，土砂崩壊防備保安林及び干害防備保安林が全域にわたって点在している。

3 都市・村落

本図葉には都市はないが各河川の流域に村落が発達しており，又日本海沿岸には密集した村落がある。

（鳥取県農業試験場　西尾　一雄）
（鳥取県農林部林務課　角脇　　智）
（　　〃　　寺坂　安雄）

あ と が き

1　本調査は，国土調査法（昭和26年6月1日法律第 180号）第5条第4項の規定により昭和51年7月2日国土調査の指定を受け，国土庁の都道府県土地分類基本調査費の補助金により，鳥取県が調査主体となって実施したものである。

2　本調査成果は国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿である。

3　調査の実施，成果の作成関係機関及び関係担当者は下記のとおりである。

指　導	国土庁土地局		
総　括	鳥取県農林部農業指導課	課　長	西尾　迢富
	〃	課長補佐	美川　季晴
画企調整編集	〃	〃	小川　末広
	〃	主　任	池内　孝明
地形調査	鳥取地学調査会鳥取大学教育学部	文部教官	豊島　吉則
表層地質調査	鳥取地学調査会鳥取大学教育学部	文部教官	赤木　三郎
土じょう調査	鳥取県農業試験場	土じょう保全科長	西尾　一雄
	鳥取県林業試験場	研究員	平尾　勝男
土地利用現況調査	鳥取県農林部林務課	課長補佐	角脇　智
	鳥取県農業試験場	土じょう保全科長	西尾　一雄
開発規制調査	鳥取県農林部農業指導課	主　任	池内　孝明

4　協力機関は次のとおりである。

鳥取県企画部企画課	鳥取県企画部統計課	鳥取県衛生環境部自然保護課
鳥取県農林部林務課	鳥取県農林部造林課	鳥取県農林部水産課
鳥取県土木部河港課	鳥取県土木部砂防利水課	鳥取県教育委員会事務局文化課

１９７７年3月　印刷　発行

千代川流域地域

土地分類基本調査

浜　　坂

編集発行　鳥取県農林部農業指導課

鳥取市東町一丁目２２０

印　　刷　緑川地図印刷株式会社

東京都墨田区吾妻橋二丁目18番３号